

希望が丘文化公園将来ビジョン（案）に対する意見・情報の募集について

1 将来ビジョンの策定の趣旨

希望が丘文化公園は年間 80 万人以上の方が来園し、そのうち、青年の城や野外活動センター、陸上競技場などの施設の利用者も 20 万人を超えている中、次のような背景から将来像・方向性を明確にする将来ビジョンを策定することとした。

- 昭和 47 年の開園時には「すぐれた自然環境を保護し、活用し、県民にいきいこの場を提供するとともに、広く県民文化、体育の向上に資する」場として設置されたが、開園後 40 年以上が経過していることを踏まえ、社会情勢の変化や利用者ニーズの多様化に応え、公園の特性を活かしたより満足度の高い公園づくりが求められている。
- 今後、東京オリンピック・パラリンピック、本県での国民体育大会をはじめとした大規模なスポーツイベントが開催されるなどスポーツ・健康づくりの機運が高まっている。
- 国体主会場選定専門委員会から「本来のコンセプトや地の利を活かし、将来のスポーツ推進に向けて施設のあり方や活用方法の検討」が期待されている。

2 検討の経緯

時期		内容
平成 26 年	11 月 25 日	政策・土木常任委員会で策定に向けた進め方について報告
平成 27 年	3 月 27 日	第 1 回希望が丘文化公園将来ビジョン検討懇話会（構成員：有識者）開催
	7 月 6 日	希望が丘文化公園利用者懇話会（構成員：利用者団体）での意見聴取
	7 月 22 日	希望が丘文化公園運営推進協議会（構成員：野洲市、湖南市、竜王町および地域団体）での意見聴取
	7 月 28 日	第 2 回希望が丘文化公園将来ビジョン検討懇話会開催

※庁内会議として、関係課長会議を 2 回、ワーキンググループを 3 回開催

3 主な意見

○希望が丘文化公園将来ビジョン検討懇話会

- ・滋賀の文化で重要なことは人と人の絆、人と自然とのつながりを大切にする行動様式・生活様式を育てて伝えていくことではないか。
- ・5 つの機能の場がそれぞれ重なり、人々の成長につながることを希望が丘で根付かせていくべきではないか。
- ・教育的な目的を持たせつつ、利用者の多様な希望に応じることができようプログラムのパッケージ化が必要ではないか。

○希望が丘文化公園利用者懇話会

- ・施設利用料と駐車料がかかるため、高く感じる。回数券・セット券を発行してほしい。
- ・テニスの大会を実施するための更衣室やアナウンス設備がほしい。
- ・トイレの洋式化、施設のバリアフリー化を進めてほしい。

○希望が丘文化公園運営推進協議会

- ・身近にないものが希望が丘にはあるというPRが必要ではないか。
- ・竜王アウトレットや道の駅をうまく活用してはどうか。

4 希望が丘文化公園将来ビジョン(案)に対する県民からの意見・情報の募集

(1) 公表する資料

- ・(別添1) 希望が丘文化公園将来ビジョン(案)概要
- ・(別添2) 希望が丘文化公園将来ビジョン(案)

(2) 公表の方法

滋賀県のホームページ掲載のほか、総合政策部文化振興課、同部県民活動生活課県民情報室、各県税事務所の行政情報コーナー、希望が丘文化公園において公表資料を備え付け、配布する。

(3) 募集期間

平成27年8月28日(金曜日)から平成27年9月28日(月曜日)まで

5 今後の予定

時期		内容
平成27年	8月28日～ 9月28日	県民からの意見・情報の募集
	10月～11月	庁内会議、第3回希望が丘将来ビジョン検討懇話会開催 政策・土木常任委員会での報告 希望が丘将来ビジョンの策定・公表
平成28年	秋頃	希望が丘文化公園基本計画策定

希望が丘文化公園将来ビジョン案 概要

1 希望が丘文化公園の経緯

- ・昭和43年に計画会議が設置され、設立に向けて動き出す。
- ・昭和47年に青年の城、スポーツ会館が開所し、全面オープンする。
- ・びわ湖国体のラグビー会場など各種全国大会が開催される。
- ・平成18年に指定管理者制度を導入し、現在第3期指定管理者として(公財)滋賀県文化振興事業団が管理している。

2 将来ビジョン策定の背景と目的

(1) 背景

- ・開園から40年以上が経過していること、平成36年に滋賀国体が開催されること等を踏まえ、利用者のニーズに応え、公園の特性を活かした満足度の高い公園づくりが求められている。

(2) 目的

- ・設管条例の目的にある「すぐれた自然環境を保護し、活用し、県民にいいの場を提供するとともに、広く県民文化、体育の向上に資する」ことをコンセプトとし、希望が丘文化公園のあるべき姿を明らかにする。

3 希望が丘文化公園の現況

- 位置：野洲市、湖南市、竜王町にまたがる幹線交通網に恵まれた地である。
- 地形：東西方向に走る谷に挟まれた花崗岩からなる丘陵地である。
- 面積：東西約4km、南北約1kmに広がり、416haの面積を有する。
- ゾーン別施設概要
 - 1)文化ゾーン：青年の城、多目的広場、レクリエーション施設
 - 2)野外活動ゾーン：野外活動センター、キャンプ場、ロッジ
 - 3)スポーツゾーン：スポーツ会館、陸上競技場、球技場、野球場、テニスコート、フィールドアスレチック、グラウンド・ゴルフ場
- 来園者数：近年は年間約85万人前後で推移している。

4 希望が丘文化公園の強みと課題

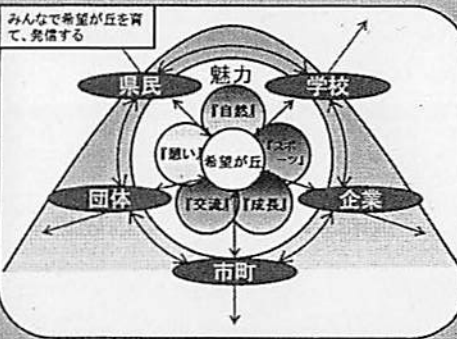
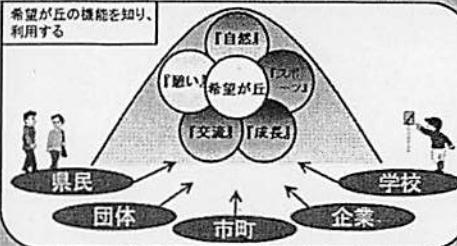
【強み】

- 豊かな自然を持つ公園
- スポーツ・レクリエーション機能を持つ公園
- 教育的機能を持つ公園
- 人と人をつなぐ公園

【課題】

- 人口減少・少子高齢化
- スポーツ・レクリエーションの推進
- 公園の管理
- 魅力づくり・魅力発信

5 希望が丘文化公園の将来像と方向性



『人と人』『人と自然』の関わりを深め、心の豊かさを育む公園

【目標(2040年)】

- ・年間来園者数100万人以上
- ・満足度95%以上

	短期	中長期
『自然』	○豊かな自然とそこに息づく動植物を活かすための管理 ○自然の風景地や多様な動植物を知り、観賞・活用しやすい場の提供	○適切な管理による里山の再生や持続可能な資源活用の実施
『憩い』	○自然や芝生広場の中でのびのびとできる取組の実施 ○安心して快適に過ごせる施設・場の提供	○安心して快適に過ごすための施設の改修 ○園内外の交通アクセスを改善する取組の実施
『スポーツ』	○スポーツやレクリエーションを気軽にかつ快適に取り組める場の提供 ○スポーツやレクリエーションの大会の実施や観賞の機会の提供	○国民体育大会等のスポーツ大会呼び込み競技性・快適性の高い施設の整備 ○新たなスポーツ・レクリエーションの普及にあわせた場の提供
『交流』	○家族や仲間、来園者同士が世代を超えて交流を深める場の提供 ○自然体験活動や野外活動等に取り組む団体の交流を深める場の提供	○希望が丘文化公園が持つ人材・ノウハウを活用した園外交流の展開
『成長』	○自然体験活動や野外活動、レクリエーションで学びを伝える取組の実施 ○自然体験活動や野外活動を指導する人材育成の実施	○県内の自然体験活動や野外活動を支援する体制づくり

みんなで育てる

- 公園の運営・事業に参画する公園サポーターを各主体から募集
- 公園サポーターで構成する検討会を設置し、魅力的なメニューづくりの検討を定期的実施
- 事業参加者アンケートによるメニューの評価・見直し

みんなで発信する

- 各主体がフェイスブックや広報誌等により希望が丘文化公園の取組・魅力を発信
- 各主体と連携し、園外での地域活動・交流を積極的に行うことで、希望が丘文化公園の魅力に触れる機会を創出

6 将来像の実現に向けて期待される各主体の取組

- 県：公園サポーターの募集、公園サポーターで構成する魅力なメニューづくり検討会の設置、運営
- 希望が丘：園内外での各主体との連携・調整
- 市町：希望が丘文化公園等との連携による多様な取組
- 県民、学校、各種利用団体：公園サポーターとしての運営・事業への参画、希望が丘文化公園等との連携による多様な取組

7 将来像の実現に向けて

- 将来ビジョンを具体化するための事業計画として希望が丘文化公園基本計画を策定。
- 収益の増加、効率的な運営管理による経費削減、必要施設・設備の見直し。
- 本ビジョンは10年を目途に評価し、柔軟に見直しを実施。

希望が丘文化公園将来ビジョン（案）

平成27年 月
滋賀県

目次

1	希望が丘文化公園の経緯	1
2	将来ビジョン策定の背景と目的	2
3	希望が丘文化公園の現況	3
4	希望が丘文化公園の強みと課題	9
5	希望が丘文化公園の将来像と方向性	11
6	将来像の実現に向けて期待される各主体の役割	18
7	将来像の実現に向けて	19

(参考資料)

資料1	希望が丘文化公園将来ビジョン(案)の検討の経緯	参1
資料2	各施設の利用状況	参3
資料3	来園者アンケート結果	参9

1 希望が丘文化公園の経緯

(1) 設立の背景

昭和 30 年代の全国的な高度経済成長期の中、本県においても立地条件を生かした産業の振興、農業の都市近郊化などが進み、農工業を一体とした産業県として高度の成長を遂げた。

このような情勢の中、県土振興の構想計画には、本県に課せられた役割を十分に自覚して、地域の特性を生かした開発整備が提唱され、特に琵琶湖を中心とする自然環境や豊富な史跡・文化財を生かし、近畿圏・中部圏はもとより、広く国民の憩いの場として積極的な地域開発が望まれた。

昭和 43 年 10 月に仮称「県民文化センター」（後の「希望が丘」）計画会議が設置され、次のような性格を持つ文化公園が計画され、設立に向けて動き出した。

- ①琵琶湖の東南部における新しく開発された都市地域の文化センターとする。
- ②本県はもとより京阪神・中京等大都市近郊のレクリエーションセンターとする。
- ③自然の保全と調和のとれた自然公園的なものとする。
- ④あらゆる人々が気軽に利用できる「憩いの場」で、特に青少年の健全な育成を中心とした施設とする。
- ⑤単なる娯楽施設の集合体ではなく、本県の文化的イメージアップにつながるセンターとする。

(2) これまでの経緯

- 昭和 44 年 3 月 仮称「県民文化センター」の名称を募集し、「希望が丘」と決定。
- 昭和 44 年 6 月 滋賀県立文化公園希望が丘基本計画策定
- 昭和 44 年 12 月 三上・田上・信楽県立自然公園の公園計画が決定され、第 2 種特別地域および集団施設地区として決定
- 昭和 45 年 3 月 野外活動センター完成
滋賀県立希望が丘野外活動センターの設置および管理に関する条例制定
- 昭和 46 年 12 月 滋賀県希望が丘文化公園の設置に関する条例制定
滋賀県立青少年宿泊研修所の設置に関する条例制定
- 昭和 47 年 1 月 財団法人滋賀県希望が丘文化公園管理公社設立
- 昭和 47 年 4 月 青年の城、スポーツ施設開所式
- 昭和 48 年 10 月 第 9 回あすをきずく青少年のつどい全国大会開催
- 昭和 51 年 4 月 財団法人滋賀県希望が丘文化公園管理公社を財団法人滋賀県文化体育振興事業団に統合
- 昭和 54 年 7 月～8 月 昭和 54 年度全国高等学校総合体育大会開催
- 昭和 56 年 10 月 びわこ国体 ラグビーフットボール競技会開催
- 平成 4 年 4 月 財団法人滋賀県文化体育振興事業団を財団法人滋賀県文化振興事業団に名称変更
- 平成 18 年 4 月 第 1 期（平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月）指定管理者として財団法人滋賀県文化振興事業団を選定
- 平成 20 年 10 月 全国スポーツレクリエーション祭 スポレク滋賀 2008 開催

第2期（平成21年4月～平成26年3月）指定管理者として財団法人滋賀県文化振興事業団を選定

平成25年10月 第3期（平成26年4月～平成31年3月）指定管理者として公益財団法人滋賀県文化振興事業団を選定

2 将来ビジョン策定の背景と目的

（1）将来ビジョン策定の背景

希望が丘文化公園は年間80万人以上の方が来園し、そのうち、青年の城や野外活動センター、テニスコートや陸上競技場などの施設の利用者も20万人を超えている。そうした中、昭和47年の開園から40年以上が経過し、少子高齢化の急速な進展など社会情勢の変化を踏まえ、利用者のニーズに応え、公園の特性を活かした満足度の高い公園づくりが求められている。

また、平成32年に東京オリンピック・パラリンピック、平成36年に本県で第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会が開催されるなど、スポーツ・健康づくりの機運が高まっているところである。

こうした背景を踏まえ、希望が丘文化公園を取り巻く現状や課題を整理するとともに、希望が丘文化公園の将来の方向性を明らかにするため、将来ビジョンを策定することとした。

（2）目的

本将来ビジョンは、「滋賀県希望が丘文化公園の設置および管理に関する条例」の設置目的にある「すぐれた自然環境を保護し、活用し、県民にいきい場を提供するとともに、広く県民文化、体育の向上に資する」ことをコンセプトとしつつ、これからの希望が丘文化公園のあるべき姿や、今後の取組の方向性などについて明らかにすることを目的とする。

（3）検討の進め方

将来ビジョンの検討にあたっては、庁内の意見交換・調整の場として「希望が丘文化公園将来ビジョン関係課長会議」および「希望が丘文化公園将来ビジョンワーキンググループ」を設置するとともに、有識者の意見を求める場として「希望が丘文化公園将来ビジョン検討懇話会」を設置し、検討を進めた。

3 希望が丘文化公園の現況

(1) 位置

希望が丘文化公園は、琵琶湖東南部に位置する丘陵地で、行政区画は二市一町にまたがり、東側の名神高速自動車道と、西側の国道8号に挟まれた東西約4km、南北約1kmの区域である。

湖東平野にそびえる盤峰三上山の山麓とそれに連なる丘陵地約416ヘクタールにおよぶ広大な自然緑地であり、当公園へのアプローチは名神竜王インターチェンジ、国道8号および同1号等から可能で、幹線交通網に恵まれた地である。

(2) 地形

この地域の中央部には、東西方向にゆるやかな谷が走り、区域内にある分水嶺から、西へ家棟川、東へ荒川と二本の川が流れている。

谷を挟んだ丘陵は、風化しやすい花崗岩からなり、土砂流出によってできた大砂原と丘陵部の赤松林が、調和した独特な風致と景観を呈している。

(3) 面積

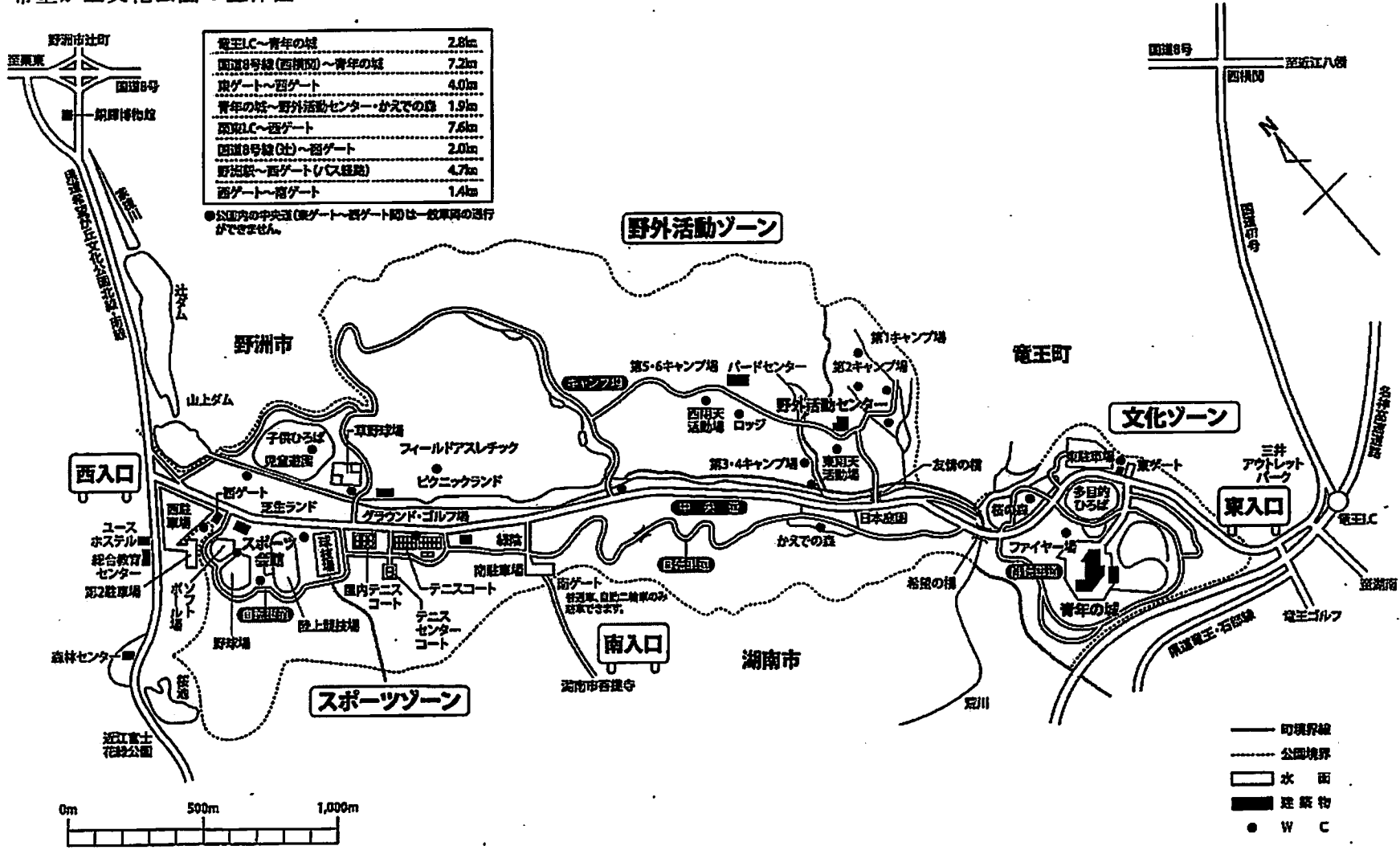
1) 行政区域別面積

市町別	面積	河川敷公有地	計
野洲市	2,384,789 m ²	174,101 m ²	2,558,890 m ²
湖南市	824,061 m ²	50,800 m ²	874,861 m ²
蒲生郡竜王町	697,729 m ²	31,450 m ²	729,179 m ²
計	3,906,579 m ²	256,351 m ²	4,162,930 m ²

2) ゾーン別面積

ゾーン別	面積	造成率
文化ゾーン	192,000 m ²	5%
野外活動ゾーン	224,000 m ²	5%
スポーツゾーン	543,080 m ²	13%
誘致地区	75,000 m ²	2%
小計	1,034,080 m ²	25%
自然林	3,128,850 m ²	75%
合計	4,162,930 m ²	100%

希望が丘文化公園の全体図



竜王IC～青年の城	2.8km
国道8号線(西横断)～青年の城	7.2km
東ゲート～西ゲート	4.0km
青年の城～野外活動センター・かえでの森	1.9km
竜王IC～西ゲート	7.6km
国道8号線(北)～西ゲート	2.0km
野洲駅～西ゲート(バス経路)	4.7km
西ゲート～南ゲート	1.4km

●公園内の中央道(東ゲート～西ゲート間)は一般車両の通行ができません。

(4) ゾーン別施設概要

1) 文化ゾーン



青年の城は、小学校から高齢者まであらゆる年代の人々が利用できる総合的な教育の場であり、学校のオリエンテーションやスポーツ合宿、企業研修等で利用されている。

施設名	施設の概要
青年の城敷地面積	36,335.72㎡
建築面積(本館)	10,845.29㎡
1階	4,816.97㎡
2階	2,488.32㎡
3階	1,604.78㎡
計	8,910.07㎡
構造	RC造3階建
(地下道)	100.32㎡
(食堂棟)	
1階	594.30㎡
2階	1,016.58㎡
計	1,610.88㎡
(自転車置場等)	224.02㎡
オリエンテーリング	ポスト30箇所スコアオリエンテーリング
ウォークラリー	5コース(1.8km~2.3km)
ディスクゴルフ	9ホール 全長475m
コロバー	8ホール(移動式)
各種クラフト	焼杉・ひもかご・プラバン・七宝焼き・紙すき・草木染・ネイチャークラフト・ステンシル・クイリング
多目的広場 (43,000㎡)	円形グラウンド
桜の森	桜の木350本 展望台
ファイアー場	3箇所
サイクリングロード	貸自転車 22インチ20台 24インチ10台 26インチ50台 全長11.67km
駐車場 (14,069㎡)	東駐車場(乗用車344台) 青年の城前駐車場(乗用車120台)

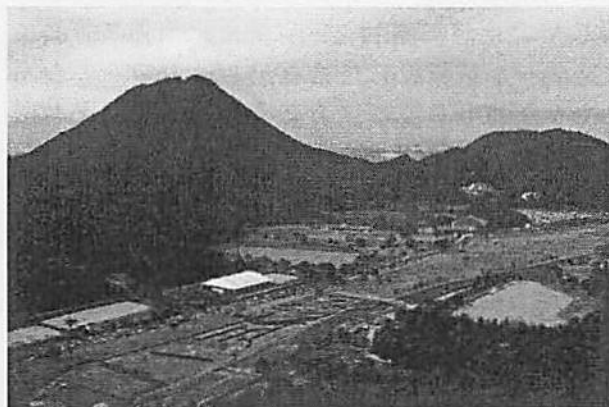
2) 野外活動ゾーン



キャンプ施設は、自然探究や野外活動ができる場であり、学校行事や子ども会での宿泊キャンプ等で利用されている。

施設名		施設の概要	
野外活動センター		1階	
敷地面積	210,000m ²	ホール	集会室(91.08m ²) クラフト室(70.4m ²) 宿直室
建築延面積	1,216m ²	2階	
1階	764m ²	事務室	医務室 多目的室(158.4m ²) 会議室 宿直室
2階	452m ²		
構造	RC造2階建		
パートセンター	310m ²	集会室・指導員室 書庫・宿直室	
かえでの森	36,000m ²	県木「もみじ」と修景地 休憩所	
オリエンテーリング		ポスト53箇所 距離4.0~5.0km	
東 キ ャ ン プ 場	第1キャンプ場	Aサイト	5人用テント 10張
		Bサイト	5人用テント 16張
		Cサイト	5人用テント 10張
	第2キャンプ場	Aサイト	5人用テント 8張
		Bサイト	5人用テント 6張
	第3キャンプ場	Aサイト	10人用テント 6張
		Bサイト	10人用テント 9張
	第4キャンプ場		10人用テント 7張
		計470名	
西 キ ャ ン プ 場	ロッジ	1棟10人収容	8箇所
	第5キャンプ場	10人用テント	20張
	第6キャンプ場	10人用テント	12張
		計400名	
炭焼窯		間口2.2m	奥行2m 高さ1.2m

3) スポーツゾーン



陸上競技場や野球場、テニスコートなどスポーツ・レクリエーションを体験できる場であり、校外学習や各種スポーツ大会等で利用されている。

施設名		施設の概要	
スポーツ会館	4,308㎡	事務室 体育室 格技室 卓球場	シャワー室 エントランスホール トレーニング室
陸上競技場	25,530㎡	屋内練習場 RC造 917㎡	全天候型弾性舗装50m・5レーン 放送室(2階)22.80㎡
球技場(サッカー・ラグビー場)	13,257㎡	本部席 RC造 少年サッカーコート2面可	事務室 放送室 更衣室等 シャワー室
野球場	13,221㎡	本部席 RC室	放送室
ソフトボール	5,083㎡	球場(センター122m 左右92.5m)	内野黒土依装 外野芝生 スコアボードS造2階建 ダッグアウト2棟 芝生スタンド
テニスコート	屋外センターコート 290㎡ 屋外コート 9,440㎡ 屋内コート 1,900㎡	コート1面 全天候型 芝生スタンド	コート13面 砂入り人工芝12面 アクリルコート1面
草野球場	15,200㎡	コート3面 砂入り人工芝 照明設備	2面
フィールドアスレチック	35,000㎡	儀 藤太の百足退治コース 45ポイント	幼児コース 11ポイント
グラウンドゴルフ場	14,300㎡	3コース 24ホール(A・B・Cコース 各8ホール)	
マレットゴルフ場	866㎡	9ホール	
芝生ランド	67,000㎡	芝生広場	
河原広場	28,000㎡		
子供広場	86,700㎡	すべり台(60m) トランポリン(6面) 遊歩道ほか	
ピクニックランド	24,000㎡	かまど付きサイト(6サイト) フリーサイト(7サイト)	
花木並木道		全長1.8km	
グリーンアドベンチャー		50ポイント 全長2.5km	
サイクリングロード		貸自転車 16インチ10台 20インチ10台 22インチ10台 24インチ5台	26インチ45台 全長11.67km
駐車場	31,655㎡	西駐車場(23,590㎡) 乗用車964台	西第2駐車場(4,977㎡) 乗用車260台
		南駐車場(3,088㎡) 乗用車117台	自動二輪車10台

(5) 来園者数

来園者数は、開園後、プールやフィールドアスレチックの開設などにより年々増加し、昭和52年度には県内外から約120万人の来園があった。以降数年間はびわこ国体の開催などもあり100万人以上を維持していたが、昭和57年以降近畿府県で同様の総合公園が開園し、また県内各地で市民プールが開設したことから減少傾向となった。以降は、グラウンド・ゴルフ場の開設や全国中学校駅伝大会の開催などによる増加要因、プールの閉鎖や青年の城塔の解体工事などによる減少要因があり、波状となっているが、近年は年間約85万人前後で推移している。

年度	入場者数	20万人	40万人	60万人	80万人	100万人	主要な出来事
昭和47年度	290,205人						青年の城、プール、スポーツ施設オープン
48年度	351,638人						「あすをきづく滋賀県10,000人のつどい」(12,000人)
49年度	612,037人						希望が丘文化公園完成記念式典(皇太子殿下・同妃殿下行啓)
50年度	705,449人						全国植樹祭に天皇、皇后両陛下行幸啓の折り、ご来園
51年度	839,371人						滋賀県文化体育振興事業団に統合 フィールドアスレチック場オープン(7月)
52年度	1,192,610人						第1回茅生大会(6,500人)
53年度	1,075,596人						公園利用者実態調査
54年度	1,176,397人						全国高等学校総合体育大会(7月～8月)
55年度	1,046,495人						
56年度	1,126,536人						びわこ国体(ラグビーフットボール競技会10月)
57年度	1,150,864人						東湖天活動場オープン(4月)
58年度	1,047,982人						
59年度	984,040人						第1回紅葉フェスティバル(11月)
60年度	804,481人						青年の城改修工事
61年度	854,801人						
62年度	875,145人						グラウンド・ゴルフ場9ホールオープン フィールドアスレチック幼児コースオープン
63年度	897,509人						南駐車場オープン(8月)、グラウンド・ゴルフ場9ホール増設(9月)
平成元年度	970,091人						
2年度	890,521人						西園天活動場オープン(7月)
3年度	983,524人						
4年度	863,268人						(財)滋賀県文化振興事業団に名称変更
5年度	821,774人						下水道整備工事完成
6年度	708,908人						休園日(毎月曜日)制定、第2駐車場完成
7年度	643,499人						プール閉鎖、西駐車場料金自動精算機設置
8年度	688,330人						プール撤去、屋内テニスコート(3面)完成
9年度	763,853人						第5回全国中学校駅伝大会
10年度	848,943人						第6回全国中学校駅伝大会、陸上競技場第4種公認
11年度	880,230人						第7回全国中学校駅伝大会 第1回健康グラウンド・ゴルフ大会(893人)
12年度	820,328人						第2回健康グラウンド・ゴルフ大会(1,210人)
13年度	856,699人						グラウンド・ゴルフ場3コース24ホールオープン(9月)
14年度	855,692人						
15年度	943,843人						
16年度	793,852人						ドリカム野外コンサート開催(7月)
17年度	620,977人						青年の城塔解体工事(10月～3月休園)
18年度	769,674人						(財)滋賀県文化振興事業団が指定管理者として指定
19年度	666,130人						青年の城耐震補強工事(10月～3月休園)
20年度	759,645人						全国スポーツレクリエーション祭2008開催
21年度	829,435人						指定管理2期目「ニュー希望が丘」スタート
22年度	848,556人						第1回全国少年サッカー大会開催、森の資源研究開発事業
23年度	849,481人						開園40周年記念事業、第1回全国なでしこサッカー大会開催
24年度	851,597人						公益財団法人へ移行、第11回日本アグーナリー開催
25年度	834,120人						希望が丘みらい基金事業、第3期指定管理者選定公募
26年度	891,248人						指定管理3期目「WELCOMEスマイル」スタート
合計	36,285,373人						

4 希望が丘文化公園の強みと課題

(1) 希望が丘文化公園の強み

1) 豊かな自然を持つ公園

- 希望が丘文化公園は三上・田上・信楽自然公園内に位置する広大な公園であり、園内には、森、山、川が存在し、環境省のレッドデータブックに掲載された希少生物など多様な動植物の生息地となっている。
- 優れた自然の風景地および多様な生態系を保護するとともに、自然体験の場や宿泊施設を有し、自然に触れやすい公園となっている。

2) スポーツ・レクリエーション機能を持つ公園

- 陸上競技場・球技場・野球場・テニスコートなどの施設を有し、学校のクラブ・サークルでの練習やスポーツ合宿として利用されるとともに、全国中学校駅伝大会や近畿高等学校ラグビーフットボール大会などの大会も実施されている。
- 公園の東西ゲートには芝生広場があり、特に西ゲートの芝生ランドは約7ヘクタールにも及び、家族との団らんやレクリエーション、交流の場として多くの方に利用されている。
- グラウンド・ゴルフやハイキングなど幅広い年代の人たちが気軽に楽しめる生涯型スポーツの場となっている。

3) 教育的機能を持つ公園

- 自然観察会や林間スクールなど自然や各施設を利用した体験型プログラムが充実しており、自然に学び、絆を深め、自主性や創造性を育む社会教育の場となっている。
- 自然体験や野外活動の指導者を育てる取組を実施し、公園内での活動はもとより学校や他の地域での活動に活かされている。

4) 人と人をつなぐ公園

- 集団宿泊体験や野外活動フェアなど共通の取組を通じて様々な人と語らい交流の輪を広げる場となっている。
- 県民に希望が丘文化公園の運営に参画してもらい、施設管理から企画立案まで幅広い分野で参画している。
- 広域応援ヘリコプターの集結進出拠点や広域陸上輸送拠点として地域防災計画等に位置付けており、防災の訓練に活用されるなど防災上重要な拠点となっている。

(2) 希望が丘文化公園の課題

1) 人口減少・少子高齢化に関する課題

- 人口増加県であった本県でも、平成 26 年に減少に転じ、人口減少局面に入ったと推測され、希望が丘文化公園の維持や来園者数への影響が懸念される。
- 子ども・若者世代が減少しており、本県においても超高齢社会が間もなく到来すると予測され、世代構造の変化に応じた場づくりが必要である。

2) スポーツ・レクリエーションの推進に関する課題

- 平成 32 年に東京オリンピック・パラリンピック、平成 36 年に本県で第 79 回国民体育大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会が開催され、滋賀のスポーツ・健康づくりを振興する追い風に恵まれる中、身近にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境の充実が必要である。
- トレイルランなど新たなスポーツ・レクリエーションが普及していく中、希望が丘文化公園の資源・特性を活かした新たな場づくりが必要である。

3) 公園の管理に関する課題

- 健康な森林づくりのための間伐、枯れ松やナラ枯れの対策、イノシシの芝生剥離被害の対処など公園の保全に要する手入れが増えてきている。
- 開園後 40 年以上が経過しており、青年の城では、防水性能が低下し、宿泊室内部への雨水の浸透や構造材の劣化など、スポーツ施設では、陸上競技場トラックの不陸やテニスコートの人工芝の摩耗など改修が必要な箇所が増えてきている。

4) 魅力づくり・魅力発信に関する課題

- 最寄の JR 駅（野洲・近江八幡）からの路線バスの本数が少ないこと、園内の東エリアと西エリアを結ぶ橋に荷重制限があることなど園内外のアクセスを改善する必要がある。
- 希望が丘文化公園の来園者数は、昭和 52 年度の約 120 万人をピークに近年は 85 万人前後で横ばい傾向にあり、希望が丘文化公園の資源を活かした魅力的なメニューづくりが必要である。
- 希望が丘文化公園が持つ自然の価値、施設の機能、イベントや体験プログラムは県民に十分に浸透しているとは言えず、希望が丘文化公園の価値を伝える魅力的な見せ方が必要である。

5 希望が丘文化公園の将来像と方向性

(1) 基本理念

全国的な高度経済成長期であった昭和 40 年代前半に、希望が丘文化公園の設立が計画され、その性格として「都市地域の文化センター」「大都市近郊の大規模レクリエーションセンター」「自然と調和のとれた自然公園」「全階層の人々が気軽に利用できる憩いの場（特に青少年の健全な育成をはかるための施設）」「文化的イメージアップにつながるセンター」と位置づけられた。生産力と雇用の増大、消費意欲と生活水準の向上といった社会情勢の中で計画された当時の希望が丘文化公園の使命は、自然や憩い、文化活動や体育活動の場を提供することで、「人々の余暇活動を豊かにする」ことであったと言える。青年の城やプール、フィールドアスレチック施設を開設し、年間約 100 万人の余暇活動の場として、その使命を果たしてきた。

その後 40 年の間に、経済・社会が成熟するとともに、人口減少や少子高齢化などの社会構造の変化、インターネットの普及等による生活の行動様式の多様化が進み、人と人、人と場との関わりが希薄になりつつある。一方、希望が丘文化公園の利用実態としては、家族・仲間との団らんを目的に来園する方が多い。

そうした時代の潮流と利用の傾向を踏まえ、県民が、希望が丘文化公園の利用を通じて、滋賀県基本構想に掲げる「新しい豊かさ」を実感し、また、「(仮称)人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略」の基本的方向である「自然と人、人と人とのつながり、生活のゆとりを取り戻す」ことができるよう取り組んでいく必要がある。

こうしたことから、県民が希望が丘文化公園において、交流・自然観察・スポーツなど様々な体験を通じて人と自然との関わりを深め、人と人の絆や自然を大切にすることを育むことを目指すこととし、『人と人』『人と自然』の関わりを深め、心の豊かさを育む公園」を希望が丘文化公園の基本理念とする。

人々の余暇活動を豊かにする公園

時代の変化

「人と人」「人と自然」の関わりを深め、心の豊かさを育む公園

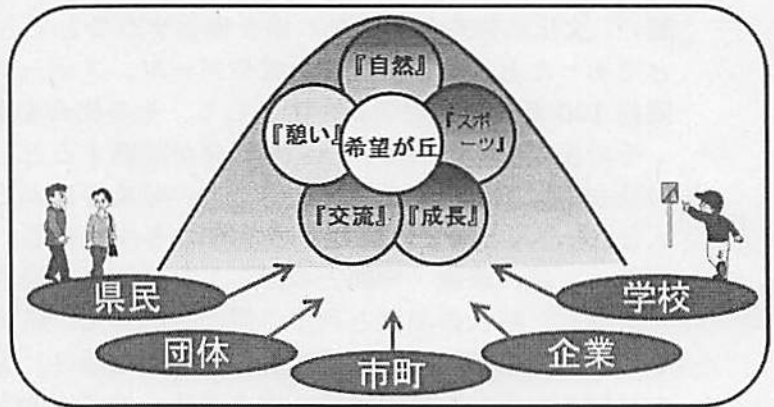
(2) 将来像

基本理念の実現に向けては、希望が丘文化公園が持つ場の機能を捉え直し、利用者のニーズにあわせてその機能を強化していくとともに、その機能を活かした希望が丘文化公園の魅力づくりを、みんなで一緒に取り組むことが必要である。「希望が丘の機能を知り、利用する」「みんなで希望が丘を育てる」「みんなで希望が丘を発信する」という3つの段階で希望が丘文化公園の魅力を高め、発信していくことで、ほぼ一世代後となる平成 52 (2040) 年に、『人と人』『人と自然』の関わりを深め、心の豊かさを育む公園」となっていることを目指す。

<①希望が丘の機能を知り、利用する>

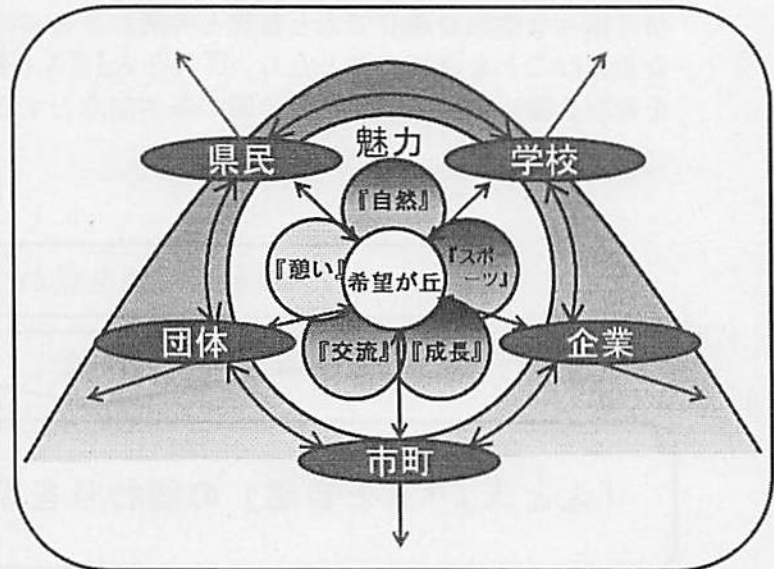
希望が丘文化公園が持つ場の機能を示すとともに、その機能を利用者のニーズに合わせて強化し、多くの方に利用してもらう。

- ・『自然』を体験する場
- ・『憩い』を感じる場
- ・『スポーツ』を楽しむ場
- ・『交流』できる場
- ・『成長』できる場



<②みんなで希望が丘を育てる>

県民、学校、団体、企業、行政など幅広い主体が広く関わり、場の機能を活かした教育的・魅力的なメニューをつくることにより希望が丘文化公園の魅力を高める。



<③みんなで希望が丘を発信する>

幅広い主体が連携し育てた希望が丘文化公園の魅力を、各主体が自ら発信し広めることにより希望が丘文化公園が『人と人』『人と自然』の関わりを深め、心の豊かさを育む公園」として定着することを目指す。

『人と人』『人と自然』の関わりを深め、心の豊かさを育む公園

(3) 目標

平成 52 (2040) 年に希望が丘文化公園が『人と人』『人と自然』の関わりを深め、心の豊かさを育む公園」となっていることを目指し、目標を以下のとおりとする。

- 1 希望が丘文化公園の年間来園者数
平成 26 年度 89 万人 → 平成 52 年度 100 万人以上
- 2 希望が丘文化公園に満足している利用者の割合
平成 26 年度 85.1% → 平成 52 年度 95%以上

(4) 取組の方向性

<①希望が丘文化公園の機能を知り、利用する>

希望が丘文化公園の持つ場の機能を知り、利用してもらうためには、場の機能をわかりやすく伝えるとともに、その機能を利用者のニーズに合わせて維持・強化していく必要がある。場の機能を5つに分類し、その機能を維持・強化する取組の方向性を示した。

『自然』 を体験する場

優れた自然の風景地と多様な生態系を管理し、来園者が自然に触れ、自然を感じ、自然の恵みを享受する場

【短期】

- 豊かな自然とそこに息づく動植物を活かすための管理
 - 自然の風景地や多様な動植物を知り、観賞・活用しやすい場の提供
- <取組例>
- ・湿地帯や湧水を活かした動植物の生息管理
 - ・園内の自然の風景地・動植物のリスト化、マップの作成
 - ・フェイスブック等を活用した自然の風景地や動植物の見どころの発信
 - ・学校や自然体験活動団体等と連携した自然体験のプログラムづくり

【中長期】

- 適切な管理による里山の再生や持続可能な資源活用の実施
- <取組例>
- ・適切な間伐、間伐材の有効活用による持続可能な森林管理
 - ・多様な主体の提案による協働型の森林づくり
 - ・植栽計画による土地にあった樹木の管理・利用

『憩い』
を感じる場

緑の自然に囲まれ、ゆったりとした時間の中で家族や仲間と触れ
合い、やすらぎや憩いを感じる場

【短期】

- 自然や芝生広場の中でのびのびとできる取組の実施
- 安心して快適に過ごせる施設・場の提供

<取組例>

- ・専門的な知識を持った職員による適切な芝生管理の実施
- ・地元自治会や猟友会と連携したイノシシ被害の対策の実施
- ・ベンチの設置やトイレの改修等高齢者や障害者等が快適に過ごせる取組の実施
- ・来園者にわかりやすい案内表示、動線の設定
- ・点検マニュアル等に基づく施設や遊具の安全管理の徹底
- ・施設利用料金と駐車場料金の割引セット券等各種割引制度の実施

【中長期】

- 安心して快適に過ごすための施設の改修
- 園内外の交通アクセスを改善する取組の実施

<取組例>

- ・老朽化を踏まえた施設の更新計画に基づく計画的な改修
- ・高齢者や障害者等に配慮した園内のユニバーサルデザインの整備
- ・周辺地域の施設と連携した周遊コースの設定
- ・園内施設間の移動バスの定期的な運行

『スポーツ』
を楽しむ場

幅広い世代が気軽にスポーツ・レクリエーションに触れ、楽しみ、
競い合う場

【短期】

- スポーツやレクリエーションを気軽にかつ快適に取り組める場の提供
- スポーツやレクリエーションの大会の実施や観賞の機会の提供

<取組例>

- ・芝生広場でのスポーツ・レクリエーション教室やイベントの実施
- ・全国中学校駅伝大会、グラウンド・ゴルフ大会等の実施
- ・スポーツ施設の実施状況を知らせる案内表示や観覧用ベンチ等の設置

【中長期】

- 国民体育大会等のスポーツ大会を呼び込む競技性・快適性の高い施設の整備
- 新たなスポーツ・レクリエーションの普及にあわせた場の提供

<取組例>

- ・競技性を高めるスポーツ施設の改修や更衣室等周辺設備の整備
- ・トレイルランなど新たなスポーツ・レクリエーションにあわせた場の整備

『交流』
できる場

家族や仲間、来園者同士が集い、ふれあい、語らう場

【短期】

- 家族や仲間、来園者同士が世代を超えて交流を深める場の提供
- 自然体験活動や野外活動等に取り組む団体の交流を深める場の提供

<取組例>

- ・自然を活かした手作り体験教室やフリーマーケットを開催するフェスティバルの実施
- ・希望が丘を利用する活動団体（自然体験・野外活動・環境学習等）の取組展示会の実施

【中長期】

- 希望が丘文化公園が持つ人材・ノウハウを活用した園外交流の展開

<取組例>

- ・希望が丘文化公園の体験プログラムを活用した学校、地域での交流活動の県内展開

『成長』
できる場

自然や仲間との交流の中で学び成長する場

自然体験活動や野外活動の指導者として成長する場

【短期】

- 自然体験活動や野外活動、レクリエーションで学びを伝える取組の実施
- 自然体験活動や野外活動を指導する人材育成の実施

<取組例>

- ・専門家の指導により植物や生きものの調査研究を行う子ども自然塾の実施
- ・コミュニケーション力を必要としたレクリエーション活動の実施
- ・自然体験活動リーダー・野外活動リーダーの養成講座の実施

【中長期】

- 県内の自然体験活動や野外活動を支援する体制づくり

<取組例>

- ・県内で活躍する自然体験活動・野外活動の指導者の登録および活動場所の斡旋

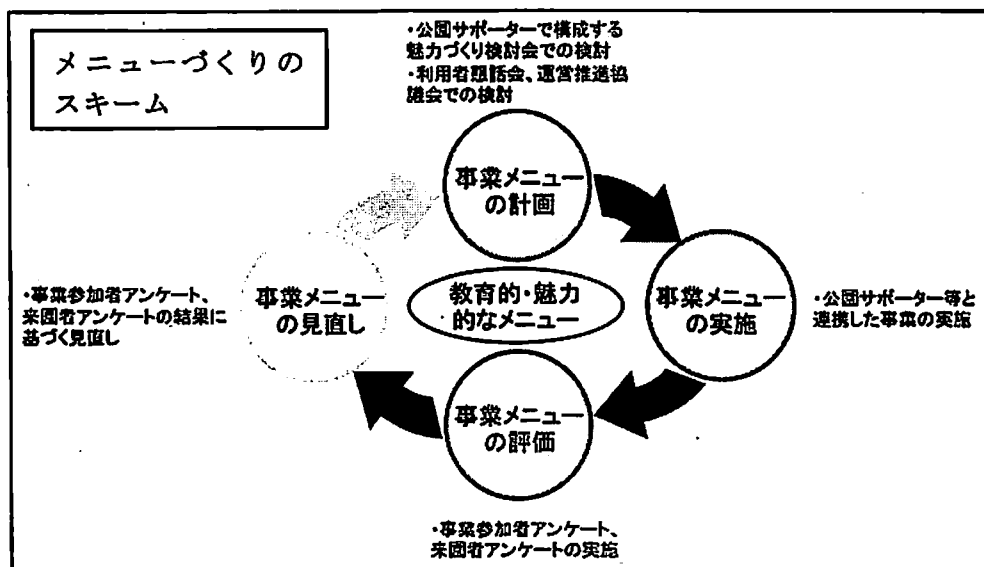
これらの取組はそれぞれが独立したものではなく、相互に組合せながら利用者のニーズにあわせてパッケージすることで、より魅力を高めることができる。その過程にあたっては、県民、学校、団体、企業、行政など幅広い主体が連携し、教育的・魅力的なメニューを作り上げていくとともに、各々がその魅力を発信することが必要である。

また、これらの取組に加えて防災拠点としての機能を維持する取組も重要である。

<②みんなで希望が丘文化公園を育てる>

みんなで希望が丘文化公園を育てるためには、幅広い主体が希望が丘文化公園の運営・事業に関わり、魅力づくりに向けた推進体制を整える必要があり、その取組の方向性を示した。

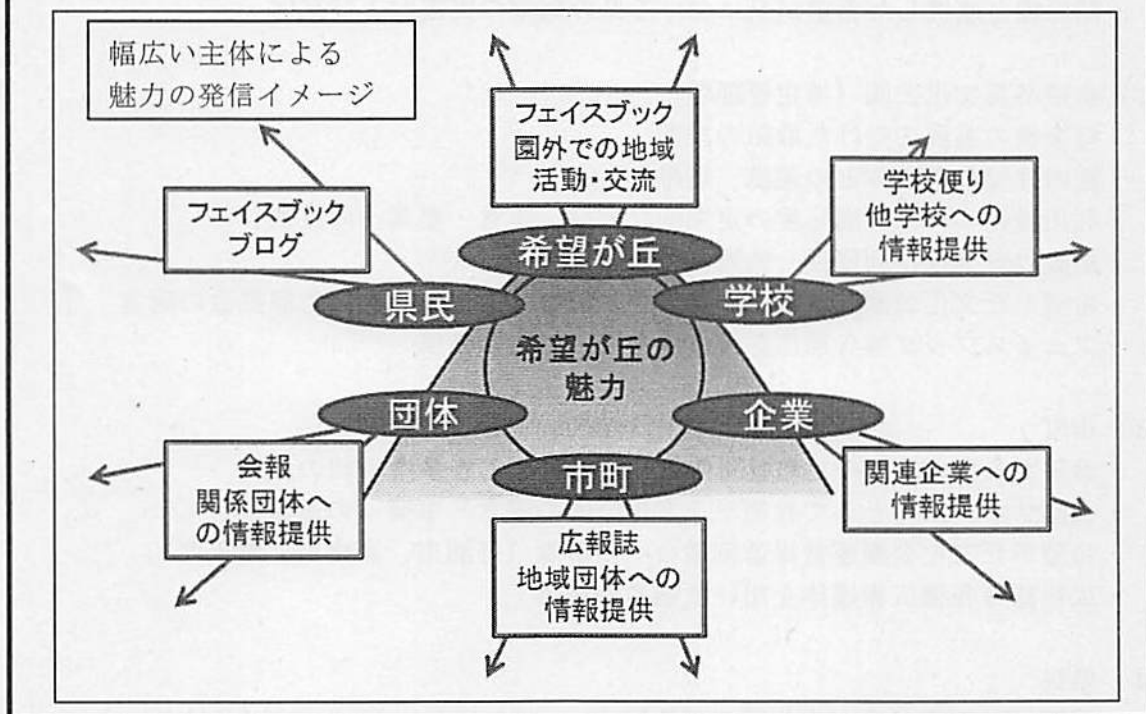
- 希望が丘文化公園の運営・事業に参画する公園サポーターを各主体から募集
- 公園サポーターで構成する検討会を設置し、教育的・魅力的なメニューづくりに向けた検討を定期的を実施
- 希望が丘文化公園利用者懇話会（構成員：利用者団体）や希望が丘文化公園運営推進協議会（構成員：野洲市、湖南市、竜王町および地域団体）など様々な機会
で教育的・魅力的なメニューづくりに向けて検討
- 事業参加者アンケート、来園者アンケートによるメニューの評価および見直しの実施
- 各主体によるイベントの実施など利用の要望に応える利用相談窓口の設置、実施
に向けたコーディネート



＜③みんなで希望が丘文化公園を発信する＞

みんなで希望が丘文化公園を発信するためには、みんなで育てた希望が丘文化公園の魅力を共有するとともに、各主体がそれぞれのフィールドで魅力を発信する必要があり、その取組の方向性を示した。

- 公園サポーターを中心に各主体がフェイスブックや広報誌等により希望が丘文化公園の取組・魅力を発信
- 各主体と連携し、園外での地域活動・交流を積極的に行うことで、希望が丘文化公園の魅力に触れてもらう機会を創出



6 将来像の実現に向けて期待される各主体の取組

将来像の実現に向けて、希望が丘文化公園に関わる各主体に期待される役割を示した。

1) 県

- ・将来像の実現に向けた取組の推進
- ・希望が丘文化公園の運営・事業に参画する公園サポーターの募集
- ・公園サポーターで構成する魅力的なメニューづくりに向けた検討会の設置、運営
- ・施設の安全性、利便性、快適性の向上
- ・広報誌、しらしがメールなど各種広報媒体を用いた魅力の発信
- ・関係課と連携した希望が丘における県の施策の実施および発信

2) 希望が丘文化公園（指定管理者）

- ・将来像の実現に向けた取組の推進
- ・園内外での各主体との連携、調整
- ・利用者のニーズ・満足度の定期的な把握、運営・事業への反映
- ・施設の安全性、利便性、快適性の向上
- ・希望が丘文化公園運営推進協議会・希望が丘文化公園利用者懇話会の運営
- ・フェイスブック等各種広報媒体を用いた魅力の発信

3) 市町

- ・希望が丘文化公園や地域団体等との連携による多様な取組の促進
- ・公園サポーターとして希望が丘文化公園の運営・事業への参画
- ・希望が丘文化公園運営推進協議会への参画（野洲市、湖南市、竜王町）
- ・広報誌等各種広報媒体を用いた魅力の発信

4) 県民

- ・積極的な希望が丘文化公園の利活用
- ・公園サポーターとして希望が丘文化公園の運営・事業への参画
- ・フェイスブック等で希望が丘文化公園での取組の発信

5) 学校、各種団体、企業

- ・希望が丘文化公園等との連携による多様な取組の促進
- ・公園サポーターとして希望が丘文化公園の運営・事業への参画
- ・希望が丘文化公園利用者懇話会への参画
- ・各種広報媒体を用いた魅力の発信

7 将来像の実現に向けて

将来像の実現のためには、希望が丘文化公園が持つ場の機能を強化していくとともに、県・市町・指定管理者・県民・学校・各種団体・企業など幅広い主体が関わり、連携しながら、希望が丘文化公園の魅力を高めていく必要がある。そうした取組を具体化するため、年次を区切った事業計画を立てることとし、希望が丘文化公園基本計画を策定する。

事業の実施にあたっては、収支バランスに十分留意する必要がある。来園者増による収益の増加、効率的な運営管理による経費削減を図るとともに、類似の機能を持つ建物の集約や利用の少ない施設の廃止検討など必要施設・設備の見直しを行う。

本ビジョンについては、取組の進捗や社会環境の変化等を踏まえながら、10年を目途に評価し、柔軟に見直しを実施する。

希望が丘文化公園将来ビジョン（案）
参考資料

目次

資料1	希望が丘文化公園将来ビジョン(案)の検討の経緯	参 1
資料2	各施設の利用状況	参 3
資料3	来園者アンケート結果	参 9

希望が丘文化公園将来ビジョン(案)の検討の経緯

1 検討の経緯

時期	内容
平成 27 年	3 月 27 日 第 1 回希望が丘文化公園将来ビジョン検討懇話会開催 ・現地視察およびあるべき姿についての意見交換
	7 月 6 日 希望が丘文化公園利用者懇話会（構成員：利用者団体）での意見聴取 ・将来ビジョン素案について意見聴取
	7 月 22 日 希望が丘文化公園運営推進協議会（構成員：野洲市、湖南市、竜王町および地域団体）での意見聴取 ・将来ビジョン素案について意見聴取
	7 月 28 日 第 2 回希望が丘文化公園将来ビジョン検討懇話会開催 ・利用者懇話会、運営推進協議会での意見を踏まえた将来ビジョン(案)について検討

2 各会の構成員

(1) 希望が丘文化公園将来ビジョン検討懇話会

氏名	役職等	備考
江島 宏治 (冨永 重紀)	滋賀県 総合政策部次長	
神部 純一	滋賀大学社会連携研究センター センター長/教授	座長
黒澤 毅	びわこ成蹊スポーツ大学 准教授	
辻田 良雄	滋賀県シェアリングネイチャー協会 理事長	
深町 加津枝	京都大学大学院地球環境学堂 准教授	
前山 亨	滋賀県キャンプ協会 会長	
涌井 努 (永井 泉)	滋賀県中学校体育連盟 理事長	

※（ ）内は第 1 回検討懇話会時の委員。
 ※深町委員は第 2 回検討懇話会からの就任。
 ※役職等は懇話会設置当時。

(2) 希望が丘文化公園利用者懇話会

- ・野洲高等学校
- ・滋賀県グラウンド・ゴルフ協会
- ・滋賀県テニス協会
- ・ヨシネットワーク
- ・滋賀県レクリエーション協会
- ・滋賀県シェアリングネイチャー協会
- ・滋賀県フライングディスク協会
- ・トヨタ紡織滋賀株式会社（公園サポーター）

(3) 希望が丘文化公園運営推進協議会

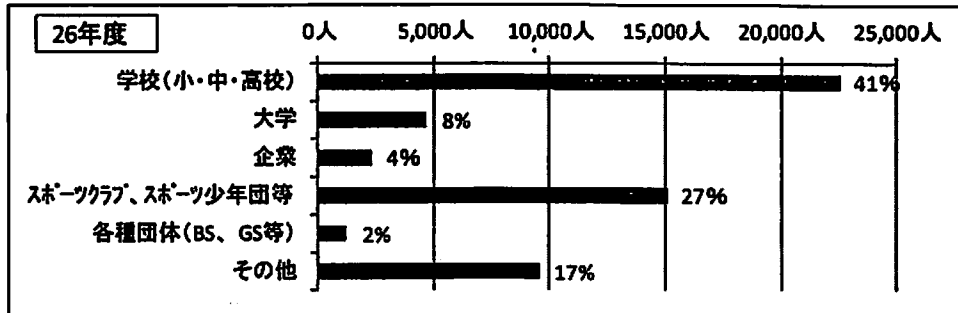
- ・（野洲市）企画調整課、老人クラブ連合会、子ども会連絡協議会
- ・（湖南市）商工観光労政課、地域創生推進課
- ・（竜王町）政策推進課、学務課、生涯学習課、老人クラブ連合会、政策推進課
- ・（滋賀県）子ども・青少年局、生涯学習課、スポーツ健康課
- ・滋賀県体育協会

各施設の利用状況

<青年の城>

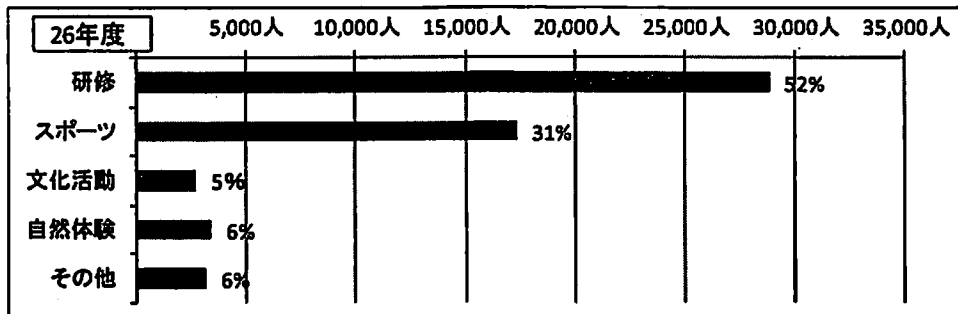
1 青年の城

(1) 利用団体



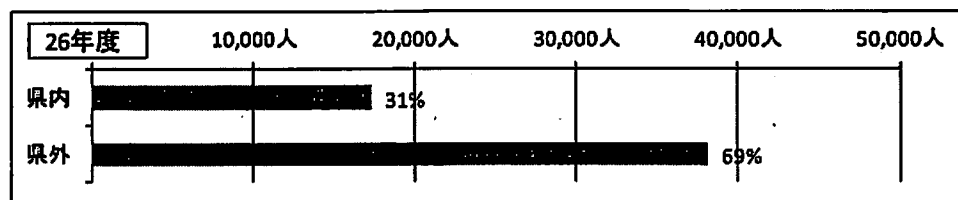
	平成26年度	平成25年度	平成24年度
学校(小・中・高校)	22,556人 41%	22,479人 42%	17,887人 33%
大学	4,674人 8%	5,040人 10%	4,212人 8%
企業	2,288人 4%	2,293人 4%	2,006人 4%
スポーツクラブ、スポーツ少年団等	15,080人 27%	10,449人 20%	17,857人 33%
各種団体(BS、GS等)	1,229人 2%	3,326人 6%	6,008人 11%
その他	9,563人 17%	9,420人 18%	5,956人 11%
計	55,390人 100%	53,007人 100%	53,876人 100%

(2) 利用目的



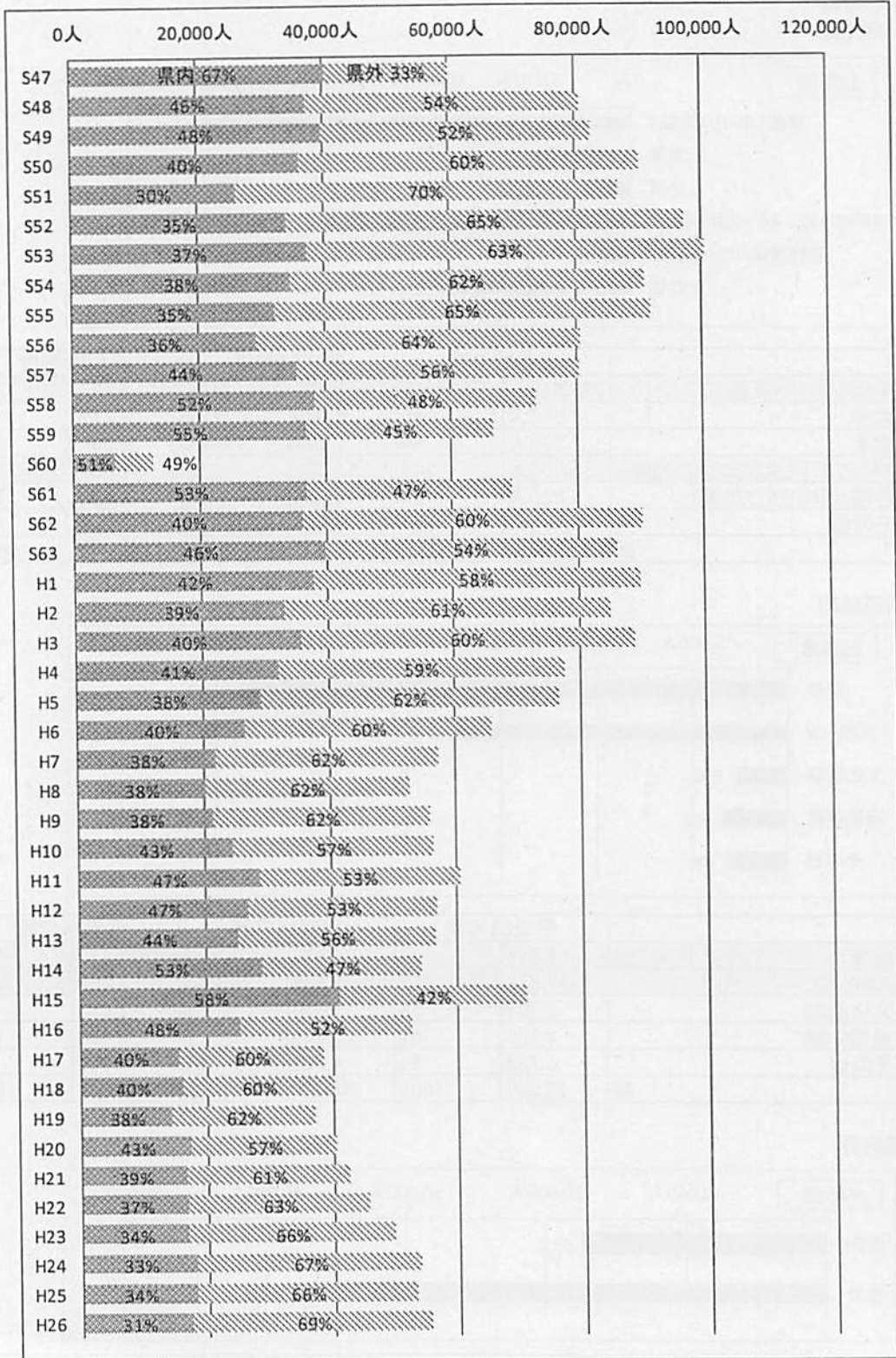
	平成26年度	平成25年度	平成24年度
研修	28,844人 52%	26,685人 50%	24,883人 46%
スポーツ	17,349人 31%	16,419人 31%	17,864人 33%
文化活動	2,707人 5%	1,330人 3%	2,615人 5%
自然体験	3,368人 6%	3,808人 7%	8,464人 16%
その他	3,122人 6%	4,765人 9%	250人 0%
計	55,390人 100%	53,007人 100%	53,876人 100%

(3) 県内外



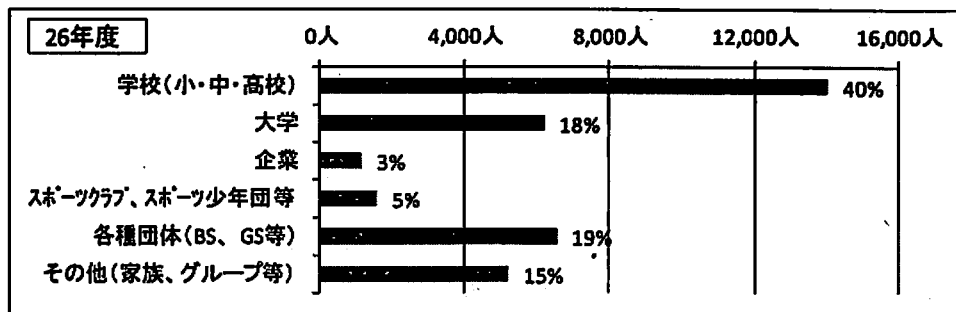
	平成26年度	平成25年度	平成24年度
県内	17,274人 31%	17,873人 34%	17,915人 33%
県外	38,116人 69%	35,134人 66%	35,961人 67%
計	55,390人 100%	53,007人 100%	53,876人 100%

(4)開園時からの利用者数推移



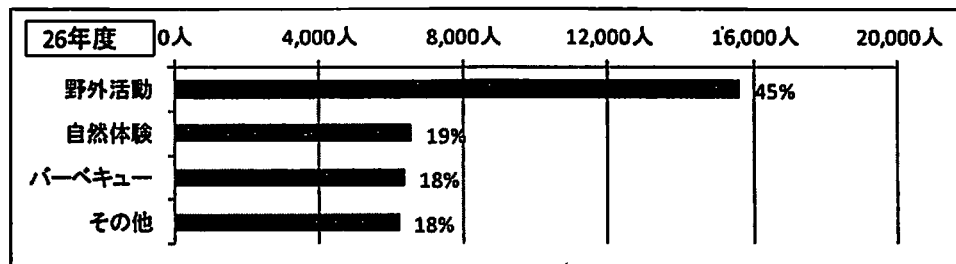
2 野外活動施設

(1) 利用団体



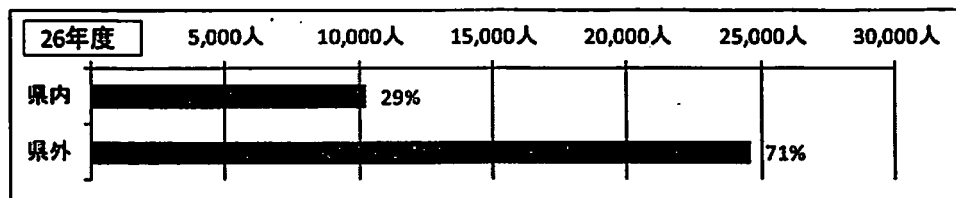
	平成26年度		平成25年度		平成24年度	
学校(小・中・高校)	14,051	40%	15,877	46%	15,124	43%
大学	6,230	18%	2,962	9%	2,570	7%
企業	1,144	3%	946	3%	2,356	7%
スポーツクラブ、スポーツ少年団等	1,571	5%	2,105	6%	2,467	7%
各種団体(BS、GS等)	6,574	19%	8,094	24%	9,982	28%
その他(家族、グループ等)	5,237	15%	4,390	13%	3,085	9%
計	34,807	100%	34,374	100%	35,584	100%

(2) 利用目的



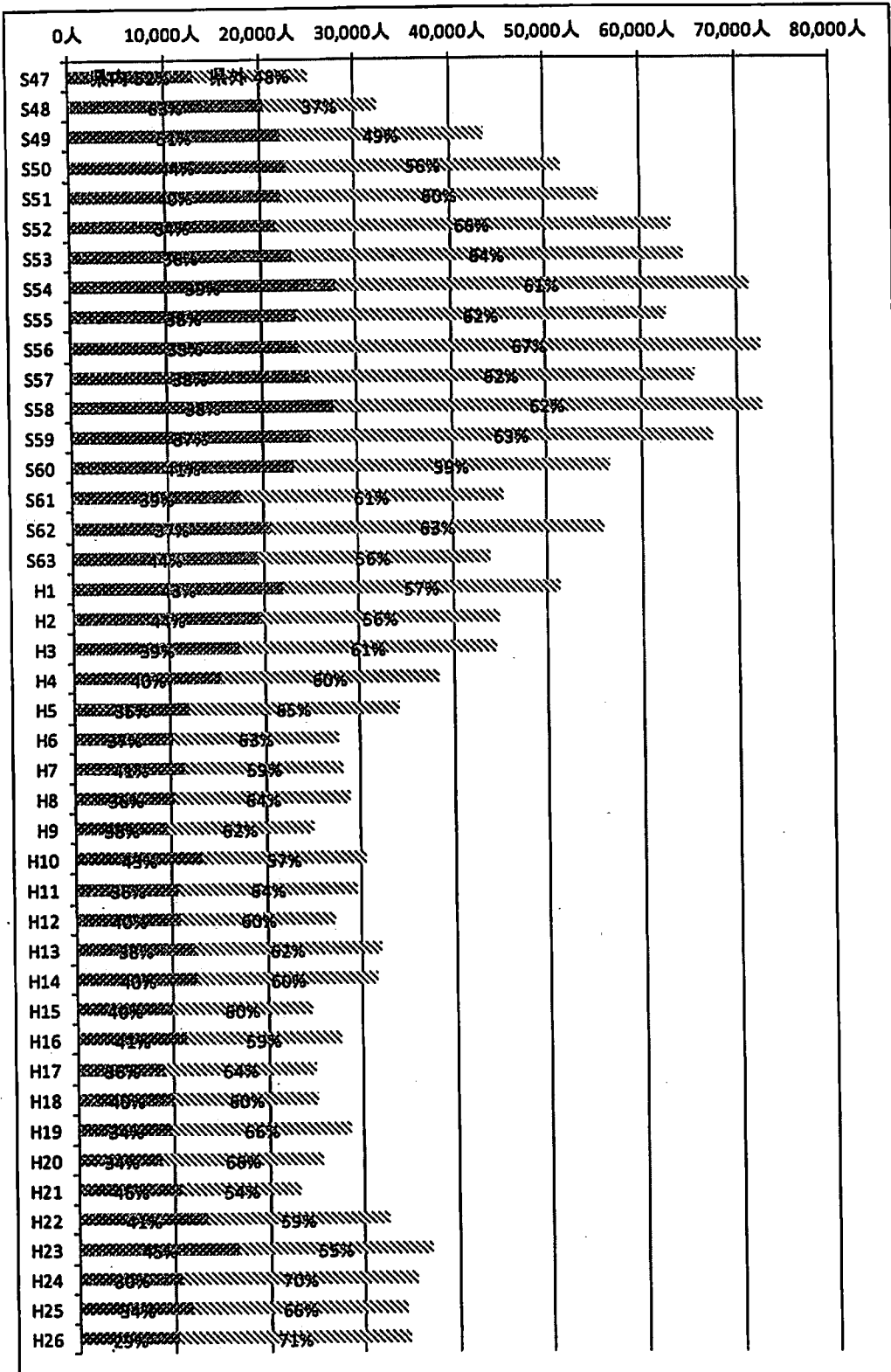
	平成26年度		平成25年度		平成24年度	
野外活動	15,622	45%	17,982	52%	17,501	49%
自然体験	6,574	19%	8,094	24%	9,982	28%
バーベキュー	6,381	18%	5,336	16%	5,441	15%
その他	6,230	18%	2,962	9%	2,570	7%
計	34,807	100%	34,374	100%	35,584	100%

(3) 県内外



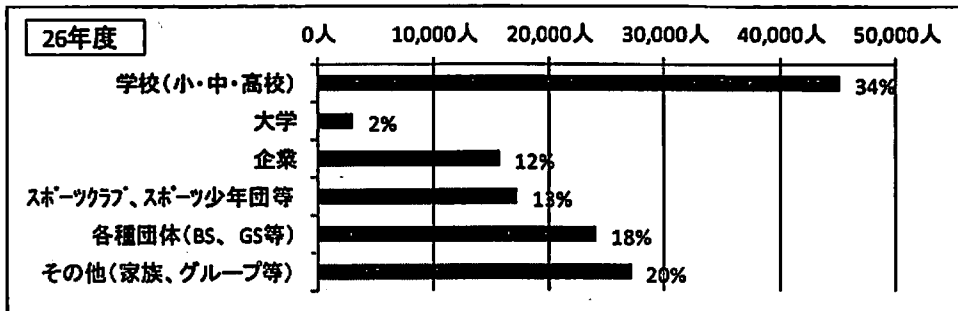
	平成26年度		平成25年度		平成24年度	
県内	10,250	29%	11,775	34%	10,645	30%
県外	24,557	71%	22,599	66%	24,939	70%
計	34,807	100%	34,374	100%	35,584	100%

(4)開園時からの利用者数推移



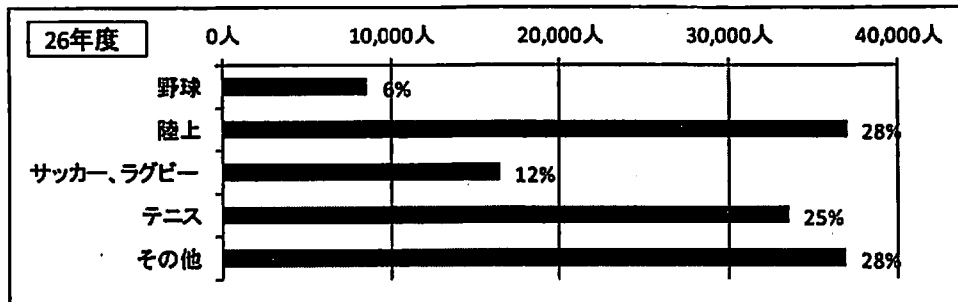
3 スポーツ施設

(1) 利用団体



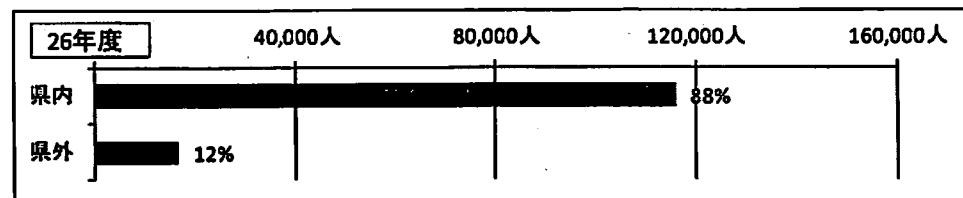
	平成26年度	平成25年度	平成24年度
学校(小・中・高校)	45,208 34%	50,685 41%	51,080 42%
大学	3,014 2%	3,218 3%	2,357 2%
企業	15,742 12%	15,222 12%	16,046 13%
スポーツクラブ、スポーツ少年団等	17,273 13%	10,255 8%	11,652 10%
各種団体(BS、GS等)	24,136 18%	17,455 14%	14,300 12%
その他(家族、グループ等)	27,125 20%	26,550 22%	25,137 21%
計	132,498 100%	123,385 100%	120,552 100%

(2) 利用目的



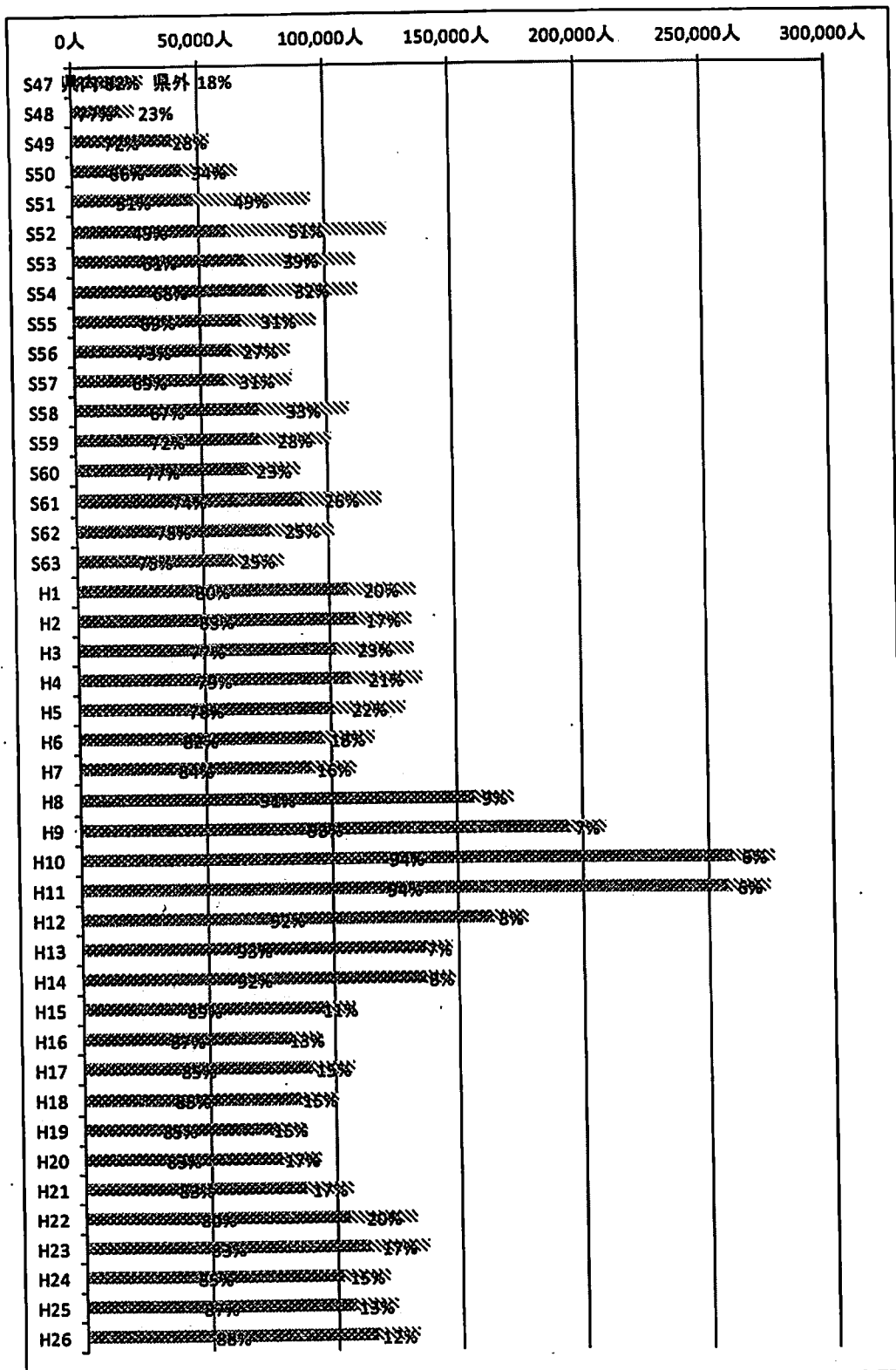
	平成26年度	平成25年度	平成24年度
野球	8,604 6%	8,682 7%	7,709 6%
陸上	36,979 28%	37,899 31%	37,000 31%
サッカー、ラグビー	16,472 12%	13,155 11%	15,310 13%
テニス	33,523 25%	32,650 26%	31,353 26%
その他	36,920 28%	30,999 25%	29,180 24%
計	132,498 100%	123,385 100%	120,552 100%

(3) 県内外



	平成26年度	平成25年度	平成24年度
県内	115,957 88%	106,814 87%	102,497 85%
県外	16,541 12%	16,571 13%	18,055 15%
計	132,498 100%	123,385 100%	120,552 100%

(4)開園時からの利用者数推移



来園者アンケート結果

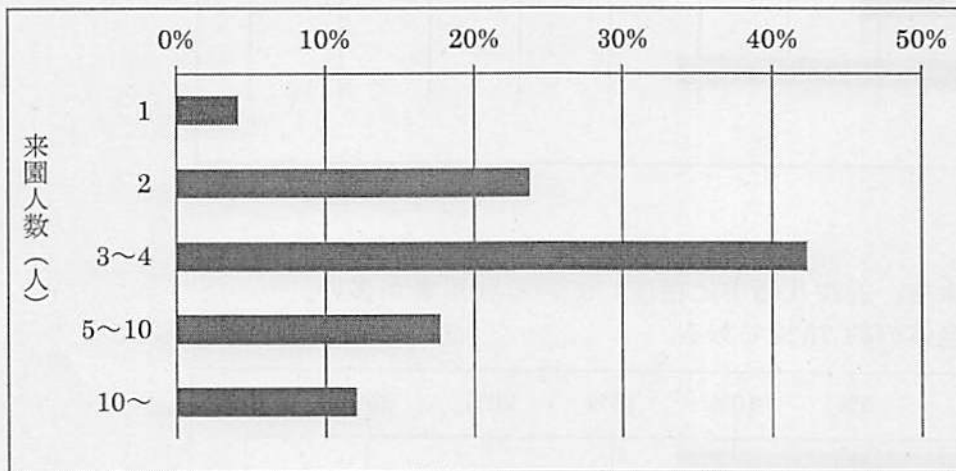
実施日：平成 27 年 5 月～6 月

実施場所：希望が丘文化公園西ゲート周辺

回答数：215 組

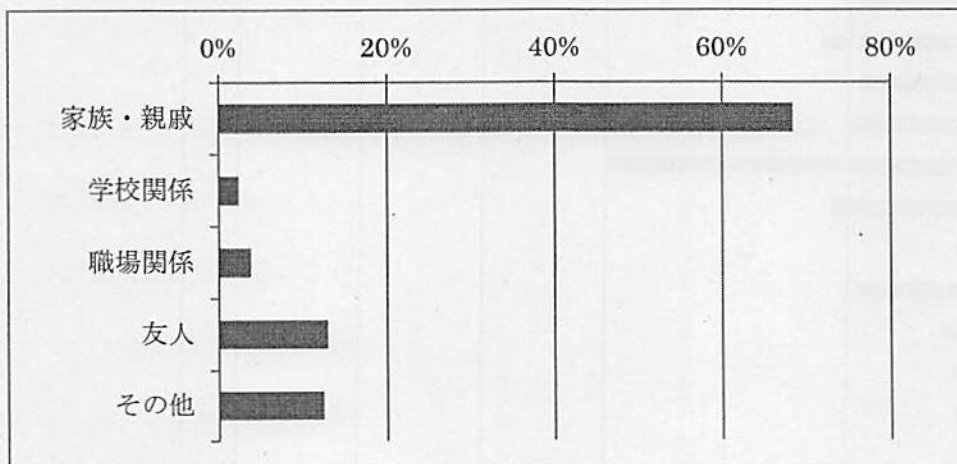
【来園人数】

・3～4人づれで来園する利用者が多い。



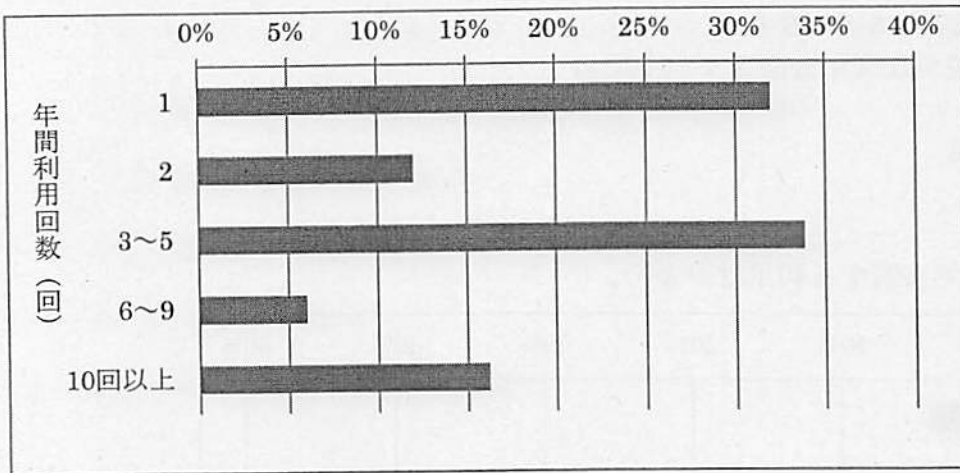
【同伴者】

・家族・親戚と来園する利用者が大半である。



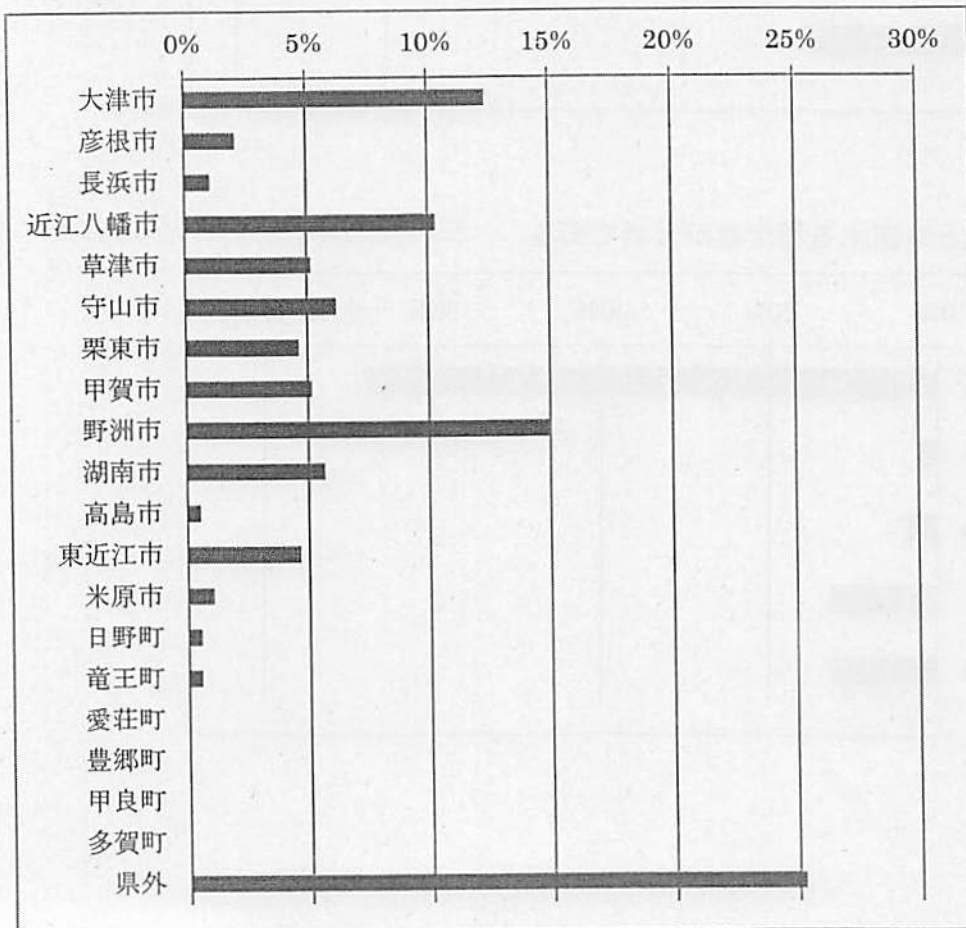
【年間利用回数】

- ・年1回（初めて含む）または3～5回来園する利用者が多い。



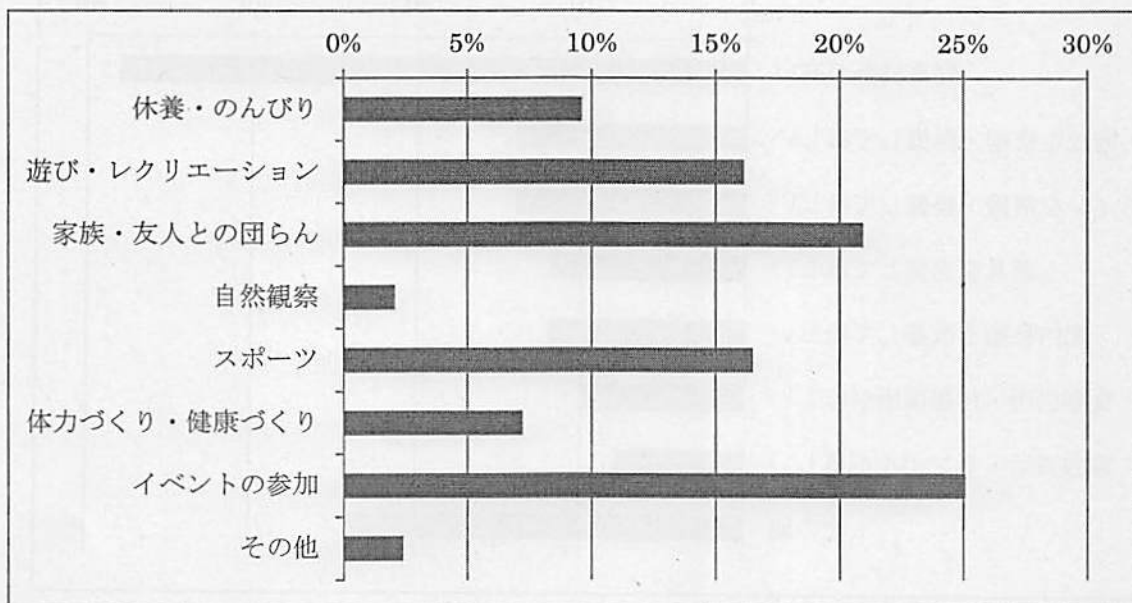
【居住地】

- ・野洲市、大津市、近江八幡市に在住している利用者が多い。
- ・県内利用は全体の約75%である。



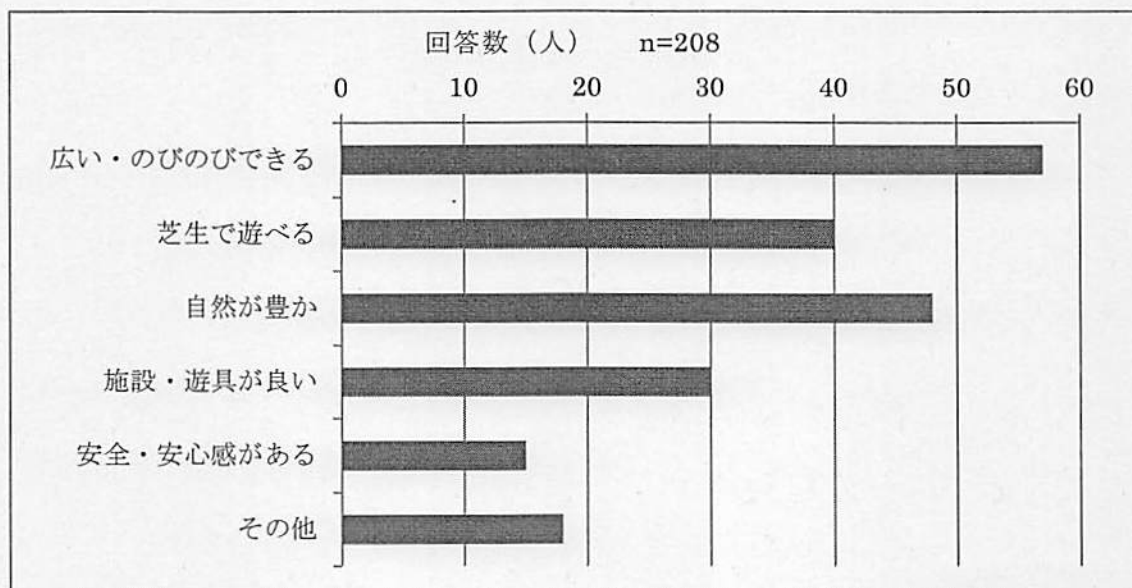
【来園目的】

- ・5月にアンケートを実施した日が新緑祭の開催日ということもあり、イベント（フリーマーケット）の参加目的の利用者が多い。
- ・イベント以外の日では、家族・友人との団らん、スポーツ、遊び・レクリエーションを目的とした利用者が多い。



【良い所】

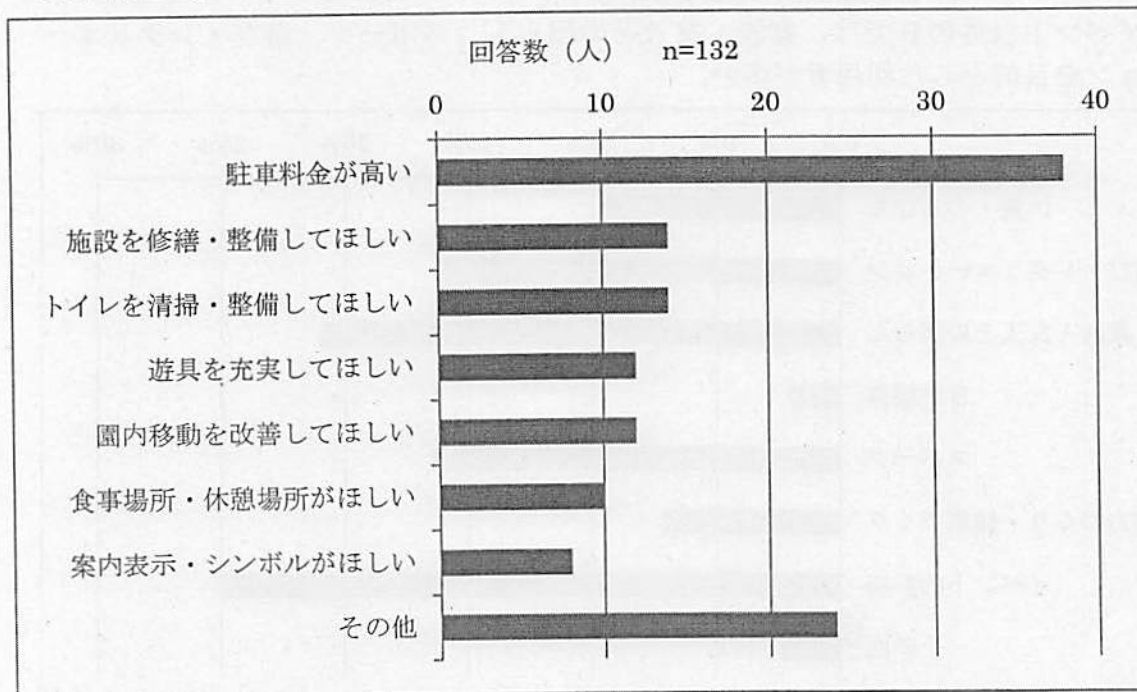
- ・広大な敷地でのびのびと過ごせる、自然が豊か、芝生で遊べる所が良いとする利用者が多い。



※その他：このままが良い、利用料金が安い、ペットを連れて来れる

【改善してほしい所】

・駐車料金を安くまたは無料にしてほしいとする利用者が最も多い。



※その他：利用の運用改善（1時間単位での貸出し、割引料金制度等）、駐車場が混む、食事メニューの改善